



草木ダム探検隊

ダムって水質や環境もたいせつにしてるんだ

ダムは洪水をくいとめたり、みんなが使う水をためておいて流したり…。でも、それだけじゃないんだ。いろんなダムの仕事について学んだよ。

●草木ダム探検隊の子ども記者

(右から)

廣谷 悠くん

(高崎市立新町第二小4年)

柳沼 真由さん

(太田市立九合小4年)

松本 玲香さん

(伊勢崎市立殖連第二小4年)

石田 真結さん

(安中市立磯部小2年)

深井 雄介さん

(藤岡市立藤岡第一小3年)

中沢 奈穂さん

(中之条町立伊勢小3年)

石田 克成くん

(安中市立磯部小5年)



子ども記者をのせたバスは、渡良瀬川にそって日光へ向かう国道122号を走る。道の駅「くろぼね・やまびこ」をすぎると、草木ダムはもうすぐ。そう、草木ダムは国道ぞいにあるって、ドライ

バーや観光客もたくさん立ちよる、わりとにぎやかなダムなんだ。でも、ちよつと見ただけではわからないヒミツもあるらしいよ。さて、どんな探検になるかな？

草木ダムはゆびおりの高さ

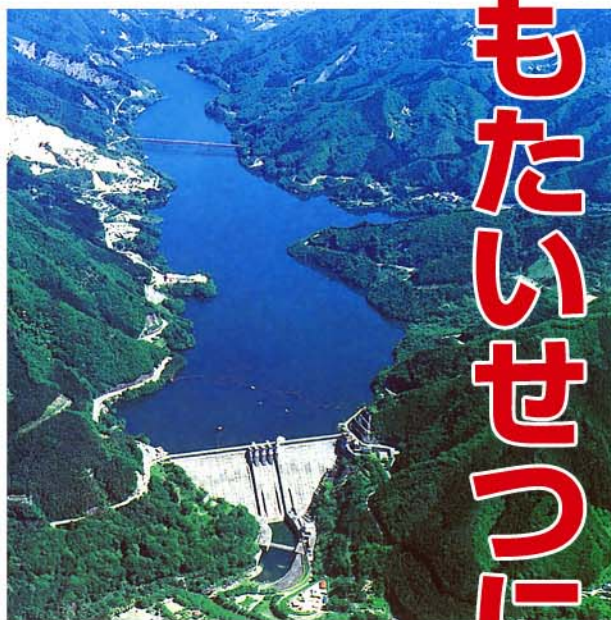
はじめに、ダムの堤体(水をせきとめているかべ)の上の道をみんなでウォーキング。それから水資源機構草木ダム管理所長の長瀬修さんのお話を聞いた。



長瀬所長さんからダムのお話

みんなで歩いてきた堤体の長さは、なんと405メートル。そして堤体の高さは140メートルもあるんだって。群馬県のダムでは奈良俣ダム(158メートル)の次に高い。草木ダムは日本の中でもノッポのダムなんだ！

(ちなみにいちばん高いのは富山県の黒部ダムで186メートル)それから、草木ダムは「東京ドーム49杯分



の水」をためておける「多目的ダム」で、洪水をくいとめたり、みんなが使う水道や田んぼ、畑などに水をおくったり、電気をおこしたりするということも学んだよ。

みごとに流木アートに目がテン

お話の中で所長さんが見せてくれたのが、ふくろうのおきもの。そのみごとにできばえに、みんなの目がくぎづけ！さらに、ダムに流れつく流木からつくられていて聞いて、またびっくり！ダムにとっては「やっかいもの」の流木が、こんなにすてきな「アート」に生まれ変わるんだね。



■草木ダムのデータ
所在地=勢多郡 東村(3月27日からは「みどり市東町」)
完成した年=昭和52年(1977)
形式=重力式コンクリートダム
ダムの高さ=140m
ダムの長さ=405m

お話を聞くと、ダムに流れつく流木を毎年秋、ほしい人たちにくばって、次の年の春に「流木アートコンテスト」をひらくということだ。昨年、もたくさんの応募があつて、入賞作品160点がズバリ展示されたそう

「洪水調節」の操作室を見学

だよ(会場は勢多郡東村社会体育館)。今年も楽しみ！草木ダムって、こんなユニークなイベントもしているんだね。

さて、いよいよ、ダム探検。まず管理所の中の「操作室」へ。

この部屋でダムのゲート(水門)を操作する。たとえば、大雨がふって川の水かさがふえるようなときは、ダムに入ってくる水をいったんくいとめて、たくさん水がいったん下流へ流れないよう、少しずつ放流したりする、というわけだ。このような操作を「洪水調節」というんだって。

操作室では、ダムの上流や下流などにとりつけられたカメラを操作して、モニターで見ることだってできるんだ。みんな、子ども記者ということでき、とくべつにカメラ操作を体験させてもらった。パン(カメラをヨコにする)したり、ズームしたり…。みんな、操作室のスタッフになった気分(?)で、もりあがったね。



はじめてのぞいた操作室。みんな興味シンシン！

●草木ダム探検隊

「おつ、なんかいる！」
みんなが見たのは「フォルミディウム」という植物プランクトン。そして、この部屋は「水質試験室」というんだって。でも、いったい、このプランクトン、なにもの？



「へえー、こんなふうには水を調べてるんだ！」



「おつ、いたいた！」これがプランクトンの「フォルミディウム」だ！さて、ダムとどんな関係があるの？



●プランクトンとダムの関係は

つぎにあらないされた部屋は…？
「なんか理科室みたい！」
「あ、これ知ってる、メスシリンダー！」
ビーカーやフラスコもあったり…、みんなには、めずらしいというよりも、学校みたいな感じだったかな。ここは、いったい何の部屋？
管理所の小野貴さんが顕微鏡をのぞかせてくれた。

をつけてしまうおそれがあるんだ。

お話を聞くと、20年くらい前、草木湖にこのプランクトン(顕微鏡で見たフォルミディウム)が大量発生し、水道の水のにおい、川の生きもののへの影響などで大きな被害があったんだって。それで、プランクトンの発生状況を調査するために水質を調べているということ、プランクトンをたいじするための装置も湖の中にあるんだって(たとえば、水をかきまぜてプランクトンの育ちにくい水温にする、など)。

そのあと見学した「水質モニター室」では、24時間自動でダムの水をくみあげて、水の温度や水がどのくらいにごつているか、水の中に酸素がどのくらいとけているか、などを調べる装置が動いていたよ。

●湖に「タケノコ」が浮かんでる！

さらに管理所の建物を出て、ダム堤体の上へ。そこから、よく草木湖(ダム湖)を見ると…
「あつ、タケノコが浮かんでる！」

ホントだ！ タケノコそっくりのふしぎな物体が浮かんでるよ。



草木湖に浮かぶ「タケノコ」？ その正体は…

長瀬所長さんに聞くと、あれは「水質自動監視装置」といって、さつき見た「水質モニター室」と同じように、水の温度やどのくらいにごつているかなどを調べて、そのデータを無線で管理所へ送っているんだって。
なるほど、ダムにはこのように「水質を守る」という仕事もあるんだね。

●堤体の中にギャラリー発見！

そのあと、ダムの堤体の中も探検したよ。ふだん管理所の人たちが点検のときに使う廊下を歩いていくと…、おやつ、かべに何枚もの絵がずらーっとならんでる！



まさか！ ダムの中にギャラリーがあるなんて…でも、美しい！

これは「うさ子とかめ吉の絵画館」といって、地元のあずま小学校の子どもたちがかいたダムの絵をこうして展示しているんだって。んー、みんな、うまいなあ。

ほかにも、堤体の中にしみこんでくる水を流す水路や、ダムの頂上から100メートルのピアノ線をたらし、ダムのかたむきを調べる「プラムライン」などを見学した。どれも初めて見るものばかりで、みんな、めずらしそうにしていたね。



「ダムはかたむくことがある」長瀬所長さんの話にびっくり！

●美術館といっしょに環境づくり

さいごに、草木湖のほとりにある「富弘美術館」を見学。

「いちど来たかった！」
「でも、ダムとどんな関係があるの？」
じつは、富弘美術館は昨年の春、まったく新しく

生まれ変わった。それに合わせて草木ダムでは、美術館と一体となった環境整備をしようと、地元の人たちと相談をして、美術館のまわりに遊歩道などをつくることにしたんだ。

「ほんとは！
公園みたい！」

遊歩道は、いまも整備中。これから花や木を植えたとき、もっともつときれいになるといふことだよ。そのときはまた、みんなであそびに来ようね。



遊歩道をさんぽ！「もっとあったかくなったらまた来ようね」

7人虹色、ダム探検の感想

悠くん「流水を作品にするなんておもしろいと思った。ダムのいろいろななはたらきについても勉強になった」
真由さん「前に草木ダムに来たときに見られなかったところが見られた。友だちもできて楽しかった」

玲香さん「管理所の人たちの話を聞いて、いろんなことを知ることができた。洪水とダムの関係もわかった」

真結さん「ダムの中の探検がおもしろかった。美術館も初めて見られて、富弘さんの絵が心にのこった」

雄介くん「洪水をふせいだり、電気をつくったり…それ以外にもダムはいろんな役割があることを知った」

奈穂さん「ダムは洪水などからわたしたちを守ってくれるんだなと思った。ダムの意外な役割も知ることができた」

克成くん「ダムのことがいろいろ勉強になった。『タケノコ』など、水質を守る取り組みもよくわかった」
—みんな、ありがとう。また会おうね。



富弘美術館の絵に感動！ いい思い出になったね